

薬局 Back Number

バックナンバーのご案内

定価 2,200円
(本体 2,000円+税 10%)



8月号 vol.75 no.9



もっと抗菌薬が好きになる 微生物学検査の活かし方

感染症の微生物学検査のプロセスにおいて、薬剤師には、検査結果に基づき適した抗菌薬が処方されているかを確認する役割が求められます。そこでは、そもそも検体の質が適切であるか・得られた情報が信頼できるかの確認、一つの結果だけにとらわれずに患者さんの状況・ほかの検査結果を合わせた複合的な判断を行うなどの、「結果の正しい解釈」が必要です。

そこで本特集では、治療にアプローチできるようにするための、微生物学検査の流れ、そして疾患ごとに、検体別にみる抗菌薬選択の考え方について解説しました。微生物学検査の正しい解釈に必要な知識を得て、どの抗菌薬が適しているかがよりわかるようになるための一冊です！

7月号 vol.75 no.8



Hey 薬剤師外来 「外来診療の質を上げる方法を教えて」

「薬剤師外来」では、薬剤師と患者による診療前の面談を通し、副作用やアドヒアランスの評価をし、医師への情報提供・処方提案などを行います。令和6年度診療報酬改定で「がん薬物療法体制充実加算」が新設されたことから、薬剤師の積極的な介入による質の高い薬物療法の提供がますます期待されています。しかし、マンパワー不足、新しい体制の設置などには課題もあります。

そこで、本特集では、さまざまな薬剤師外来実施施設にご協力いただき、薬剤師外来の導入・運営での課題を抽出し、解決までの方策をまとめました。さらに、「がん」に加え「吸入」や「術前」など実際に行われている取り組みを疾患別に解説しています。

6月号 vol.75 no.7



加算算定までつなげる！ 外来がん治療の「病-薬連携」

がん薬物療法はさまざまな背景により、入院から外来へとシフトしています。外来で安全かつ効果的に治療を行うには、病院-薬局間の連携がポイントです。この連携は医療コストの削減にもつながる画期的なアプローチで、診療報酬・調剤報酬改定の面からも薬剤師に期待される役割の一つとなっています。

本特集では外来がん化学療法に介入するポイントや注意点、病院から提供される情報の活かし方、薬局から病院へ患者情報をフィードバックするコツなどを解説します。外来がん化学療法の連携に取り組もうと思っている方、すでに取り組んでいてさらにブラッシュアップしたい方に必携の特集です！

2024年5月号 vol.75 no.6

腸内細菌となかよく 生きて腸までとどく薬学管理

2024年4月号 vol.75 no.5

ストップ！CKD「腎臓を守る」包括的な視点

2024年3月号 vol.75 no.3

微量元素 みいつけた
生理作用・疾患・くすりと食品にクローズアップ！

2024年2月号 vol.75 no.2

子どものための ステロイド外用剤のレシピ

2024年1月号 vol.75 no.1

基礎薬学とエビデンスから おくすり比べてみました

2023年12月号 vol.74 no.13

2023年になにあった？ 今年注目の診療ガイドライン&新薬・新規効能・新剤形

2023年11月号 vol.74 no.12

転ばぬ先の漢方薬 脱・介護！フレイル・ロコモ・サルコペニア対策の新たな一手

2023年10月号 vol.74 no.11

ひとりでもできるもん 薬剤師のものさし
先輩が使ってる評価基準や情報源をまとめました

年間購読、バックナンバーのご注文は、最寄りの書店または(株)南山堂 営業部へお申し込みください。



南山堂

〒113-0034 東京都文京区湯島4-1-11
TEL 03-5689-7855 FAX 03-5689-7857 (営業)

URL <http://www.nanzando.com>
E-mail eigybu@nanzando.com

2026/09/16 23:09:38